



W14・D14・H9cm



W145・D135・H10cm



W11・D115・H10cm



W14・D15・H15.5cm



W11・D11・H10cm



W19・D16・H13cm



W16・D13・H8cm



W17・D16.5・H6cm



W19・D16・H12.5cm



W12・D11・H9cm



W14・D14・D8cm



W12・D12・H10cm



W10・D9.5・H8cm

料金後納
ゆうメール

POST CARD

芳賀龍一展 焼き物サードウェーブ
二〇一九年七月六日(土) 十四日(日) 会期中無休
営業時間 十一時~十八時 作家在館日 七月六日(土)・七日(日)
・ 八月一日(月) 休館日

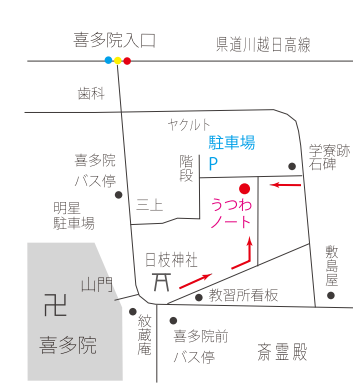
RYUICHI HAGA THIRD WAVE OF YAKIMONO



W36・D36・H41cm

芳賀龍一展 焼き物サードウェーブ
2019.7.6SAT - 14 SUN

GALLERY
うつわノート



ギャラリーうつわノート
埼玉県川越市小仏波町1-7-6
TEL 049-298-8715
MAIL utsuwanote@gmail.com

電車：川越駅(東武東上線)より徒歩25分
本川越駅(西武新幹線)より徒歩20分
バス：東武バス東武東上線(小仏波町)より徒歩10分
駅南口(東武東上線)より徒歩10分
車：ギャラリー専用の駐車場は3台分

芳賀龍一(はがりゅういち)プロフィール
1984年 福島県会津若松市生まれ
2010年 武蔵野美術大学大学院彫刻コース卒業
2013年 栃木県芳賀郡足子町に築窯
2019年 現在、足子町にて製作
栃木県足子町の芳賀龍一さんにとって焼き物は、まず土や石探しから、地元、北関東周辺の野山や河原を巡り原料を採るから始まります。それは決して素直に使える陶土の材料ではありません。しかし厚く、固く、粘り強く、そのままとて焼き、形作り、焼くという行為が、そこに芳賀さんの興味は収まりません。素直な原料には滑らかな、漆黒の古陶器があるのですが、決して焼山の煙を踏襲し、その微塵を目撃して、いるではありません。美入では彫刻を専攻、在学中に陶芸サークルで焼き物にはまり、今に至ります。陶芸に関しては難関だった教育を受けておらず、いわば在学中に近い手探りの中で焼き物を見てきたのです。整理された方法化された陶芸の土儀からスタートすればスムーズな道もあったでしょう。しかし規定の枠を超えるには、あらたに原点から問い直すことでなくてはならないと感じます。今、芳賀さんのように焼き物を交差して陶芸時代の作り手が揃っています。いわば焼き物サードウェーブ、昭和初期に始まる桃山陶が第一の波、昭和中期に後期の表現陶が第二の波、そして今ある第三の波、新原理主義、それは現代の技巧が先に向かうのではなく、「土」と「火」によって変化させる焼き物の根元に立ち返るという点が特徴です。さく、芳賀さんの陶器。さらさら焼き物陶器のまろやかなつわ、まじりこみからみ出した作品がひびき、粗りな焼き物ではあるが、またまとめる段階ではなく、放射してゆく時期でしょう。かしまは音響よりも、この音響に進行する焼き物の根元に目を向けて欲しいと思います。皆様のご来店をお待ちしております。